

手をたずさえて

“KOHARADA WAY” 自分に打ちかて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年 2月 5日 (金) 発行

【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

生徒会総会は“民主主義”を考え学ぶ場！ 後期生徒会総会開催

2月3日(水)の6校時には「後期生徒会総会」が行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前期生徒会総会同様、放送による総会となりました。生徒会本部役員、専門委員長、部活動部長、議長、代表質問者の生徒が体育館に集合し、そこから全校放送で総会を進めました。

生徒会長：伊藤孝太郎君の要項に掲載した挨拶文です。

「生徒会総会」とは、生徒会会員が一堂に会して、委員会や部活動の年間活動を審議することにより学校生活を自分たちの力でよりよくしていくとする意識や態度を身につけ、活動の実践に繋げていくための場です。この「生徒会会員」とは、ここにいる生徒全員のことです。生徒会則第31条に「全ての会議は、会員の3分の2以上の出席をもって成立し、決議は全ての出席数の過半数により決定する」とあります。生徒の皆さんが出席しなければこの総会は成り立ちません。皆さん一人一人が大事な生徒会会員です。そして、この学校の教育目標である「健康・自主・責任」、この「自主」

には「積極的に意見を出そう」ということも含まれます。生徒の皆さんの意見によって学校が大きく変わることがあります。「疑問・要望・提案」といった様々な意見によって生徒会活動や学校の活性化に繋がります。

また、学校の生徒会の活動は現在の政治の仕組みと類似しています。生徒会本部＝「内閣」、各専門委員会・部活動＝「各省庁」です。生徒が過ごす学校が「国」、そして、この生徒会総会は「国会」にあたり、意見をたくさん述べ合う場でもあります。この生徒会総会は、民主主義を考える上で大切な場なのです。…



挨拶する伊藤会長

体育館と各教室を放送で繋ぐ

伊藤君は、生徒会を国の政治に例えるなど、とても大切なことを言ってくれています。総会は2年伊野裕美さん、

近内快成君が議長を務め、生徒会本部、各専門委員会、各部活動の年間活動報告（成果や課題、今後力を入れて取り組むことなど）、生徒会会計執行状況報告がありました。質疑応答も行われ、なるほどと思える建設的な提案がいくつかありました。最後に講評として、教頭先生から次の3つの話がありました。一つ目は、この会の準備・運営にあたった生徒会本部役員等へのねぎらいがあり、二つ目には、今まで生徒会を牽引して



活動報告と質疑応答の様子

くれた3年生への感謝、三つ目には1・2年生へのこれからの活動について、どんな些細なことでもいいから具体的に動くことの大切さが生徒に伝えられました。みんなのこれからの前向きな行動に期待しています。

先輩たちが培ってきた学校の伝統。それを受け継ぐ私たち。
この校風を、私たちの時代にもっとすてきなものにして
後輩たちに伝えることはできないだろうか？
いま、この学校に私たちは誇りをもてるだろうか？
きっと「よいところ」もあり、「よくしなければならぬところ」もあるだろう。
校風とは、脈々と受け継がれるものであるけれど、
私たちが気づいて行動することで、
いっそうその輝きを増すことができる。

校長挨拶の中で、視聴覚委員会
委員長の熊田紅彩さんに朗読して
もらった詩の一部です。



今年度は次の2つをセットにして“卒業式”とします！ 3月8日(月)“お別れ会”と12日(金)“卒業証書授与式”

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月3日から臨時休業の措置がとられ、卒業式については、3月13日に縮小した形で実施されました。式や式歌の練習を行っていた中での臨時休業措置だったので、在校生が式歌を正式に披露する場はありませんでした。今年度もコロナの感染状況は収まらず、感染予防対策を踏まえた卒業式の実施となります。当初予定していた卒業式を次のように変更して実施します。

1 3月12日(金)の“卒業証書授与式”について

- ① 在校生の参加を取りやめる。代表生徒(生徒会長)のみ参加とする。
- ② 式は午後開催(13:30～)とする。卒業生は午後登校。在校生は午前登校。
- ③ 来賓の参加を取りやめる。PTA会長のみ参加とする。
- ④ 卒業生の保護者の参加は、各家庭2名までとする。
- ⑤ マスク着用等、感染症対策を講じての式とする。

2月4日
積雪の朝



卒業証書は一人ずつ授与する。生徒は入退場及び証書授与の時はマスクをはずす。(写真・ビデオ撮影のため)言葉を発しないので安全であると判断。その他はすべてマスク着用。

- ⑥ 式歌は、国歌、『旅立ちの日に』、校歌の3曲を歌う。(マスク着用のまま)

2 3月8日(月)の“お別れ会”について (卒業生と在校生の交流、生徒会主催)

- 内容は、①在校生から卒業生へのメッセージと歌『花束』、②卒業生から在校生・先生方へメッセージ、③全体合唱『輝くために』と校歌など、生徒会が主体となって会を進めます。

卒業証書授与式は規模縮小としますが、もう一つの卒業式として卒業生と在校生の“お別れの会”を実施し、この2つをセットとして“令和2年度の卒業式”と考えていきます。

“想い”を“かたち”に… 卒業式の意味を心に刻んで！



負ける人のおかげで勝てるんだよなあ。後輩のおかげで先輩になれるんです。買い手があるから売れるんです。売り手があるから買えるんです。
〈おかげさん〉でないものは、この世にひとつもありません。
みんな〈おかげさん〉で成り立っているんです。
自分が何かができるのは、誰かの〈おかげ〉なのかもしれません。
自分のまわりにあるものは、誰かの〈おかげ〉であるのでしょうか。
自分のまわりの人の〈おかげ〉で助かっていることがいろいろあるのです。

相田みつをさんの書と言葉です。卒業式を間近に控えた3年生、そして、小原田中のこれからを担う1・2年生、それぞれの立場で、この「おかげさん」言い換えれば「おかげさま」という言葉を、今だからこそしみじみ前へと進んでほしいと思います。「おかげさま」という言葉とその意味は、とても日本的で奥ゆかしさのある響きだと思います。この「おかげさま」という言葉は、仏教が説く「諸法無我(しよぼうむが)」の教えに由来しています。「世の中のものは全て単独で存在しているのではなく、かかわりの中で生きている」という教えです。“人間”は「にんげん」と読みますが、仏教では「じんかん」と読み、人はかかわりによって間柄を持ち“人間”になる、という教えがあります。自分が自分として存在できるのは、まさに他者の「おかげさま」ということです。

3年生は、お父さんやお母さんをはじめとする家族、先生方、後輩、そして仲間に対して、1・2年生は、卒業する3年生に対しての「おかげさま」という“想い”を“かたち”にしてほしい。それが、2つの卒業式の臨むべき姿であり、卒業式への意味付けになると思います。

今年度は、例年のように全校生での式の練習は行いません。卒業証書授与式に向けては、3年生が学年練習を行います。そして、式歌とお別れの会の歌の練習は音楽の授業を中心に行います。少ない練習時間だからこそ、「おかげさま」という気持ちをしっかり込めて、その時間を大切に集中して取り組んでほしい。そうすれば、きっと心に残る素晴らしい卒業式が実現できると思います。

3年生の 保護者の皆様へ

3年生の保護者の皆様には、本日「卒業証書授与式」の案内文書を配付させていただきました。今年度の卒業式は、この号に掲載しました内容で実施いたします。来賓・在校生が出席しない特別な式という捉え方ではなく、「お別れの会」と「卒業証書授与式」をセットとして考え、「今できることを精一杯やって卒業生を送り出そう！」という想いで準備を進めていきます。式の詳細については、感染状況も見ながら再度お知らせします。よろしくお願いいたします。

